

平成 27 年度 大阪府立箕面東高等学校 第 1 回学校協議会 報告

【日時】 平成 27 年 6 月 27 日(土) 9 時 30 分～11 時 00 分

【場所】 校長室

【出席者】協議会委員：門脇 英純(大阪成蹊大学)、里村 潔(箕面市立第六中学校校長)  
三島 義博(本校 PTA 会長)、篠崎 朗(本校同窓会長)  
学校事務局：山崎 政範(校長)、鎌田 啓(教頭)、貴治 康夫(教頭)、  
川上慶次郎(首席)、上原口理香(教務主任)、八雲 健一(卒業年  
次主任)、 藤田晋太郎(1 年次主任)、矢野 茂太(社会科)

【説明・報告事項】

1. 委員委嘱 里村 潔校長に山崎校長より委員委嘱
2. 自己紹介
3. 学校協議会実施要項の確認 27 年度学校協議会会長は門脇英純委員。
4. 平成 26 年度学校協議会のまとめ
5. クリエイティブスクール (CS) 8 期生卒業後の進路と 9 期生の希望進路

**CS 8 期生の進路決定状況について (鎌田)**

・174 名中、大学・短大は 41 名、専門学校は 64 名、就職は 32 名  
(学校斡旋は 26 名) である。

**CS 9 期生の進路希望状況について (八雲)**

・例年に比べ中退、転学は少ない。専門学校・就職希望者が多い。成績上位者が就職を希望するケースが多い。72 名の就職希望で CS7、8 期の倍以上に増加。

6. エンパワメントスクール (ES) の状況・授業公開

**6 月の授業公開の様子・参加者の意見 (貴治)**

・3 日間の授業公開で、府教委 30 名、中学校 23 校 (教員 19 名、保護者等 26 名)、  
高校 3 校 (教員 6 名)、本校保護者 11 名、その他 2 名、計 94 名の参加。  
・国数英の 30 分モジュール授業や新たに導入したメロディチャイムについて高い  
評価を頂いた。

**ES 1 期生 (1 年次生) の 4 月～6 月の状況 (藤田)**

・朝の 10 分学習と 30 分モジュール授業が開始し、授業規律の徹底が重要。4 月当  
初のオリエンテーション合宿は有意義であった。

### <質疑応答>

- ・生徒の一部が学校に馴染めないということだが、モジュール授業が原因か？(委員)  
→学校のルールや当たり前の指導に順応できていない生徒がいる。  
→生徒の将来のために粘り強く対応していく。
- ・モジュール授業での教員に対するサポート体制はどうなっているのか？(委員)  
→モジュール授業の教材は府教委から提供されたもの、府教委と ES3 校の教員がチームを組んで作成したのがあり、中身の工夫は各教員に任せられている。  
→授業内容が生徒の実態に合わない部分もあり、今後に向けて、目標をどのように設定して年間計画を作成すればよいのかといった課題も見えてきている  
→習熟度別クラス編成や授業進度など生徒の学力実態に合わせた修正が必要。

### 【協議事項】

#### (1) 本年度の重点目標と取り組みについて(山崎)

「平成 27 年度学校経営計画」については今年度 ES になり、中期的目標を大幅に改訂。特に「基礎学力」「考える力」の定着をめざす授業改善を最重要課題として位置づけた。府のパッケージ研修支援Ⅱ事業も活用し、「わかる授業」を実現させたい。

#### <委員の意見>

- ・学ぶ楽しさを教えるとともに、コミュニケーション能力が不足している生徒に対しては、人としてできることをできるように育ててほしい。学校をやめたいという生徒を全力で止めて説得する箕面東高校の姿勢は継続してほしい。
- ・心が通じ合わないとコミュニケーションやしつけは通じない。家庭環境の状況など、根っこの部分を理解することが必要である。これまでコミュニケーションの大切さを家庭や学校は疎かにしてきたように思う。家庭と学校の相互理解が非常に重要であり、学校への思いが希薄になるのはコミュニケーション不足が原因ではないか？
- ・ES の社会に対する役割は、社会人としての基礎力と規範性、社会への帰属意識を身につけさせることにあると考える。いわゆる「地頭(じあたま)」の良い学生を育てるためには朝の 10 分学習とエンパワメントタイムの充実が不可欠である。

#### (2) 平成 28 年度使用教科書採択について(上原口)

6 月 18 日に教科書選定調査委員会開催。これから教員全員で教科書の選定を行なう。